

日南町希少植物図鑑



日南町

はじめに

1 本書の目的

日南町には多くの生き物が暮らしています。多くの場所で生きていくことが困難になり、レッドデータブックに掲載されるようになった希少な生き物も多く生息・生育しています。植物については、鳥取県のレッドデータブックに掲載される維管束植物404種のうち99種が日南町に生育しています。そのうち8種が日南町だけで生育が確認されている種です。また鳥取県のレッドデータブックには掲載されていないものの希少な植物が8種生育しており、そのうちの3種が日南町だけにしか生育しない種です。

開発や乱獲、人と自然のかかわり方の変化、外から持ち込まれた生き物、気候変動が、多くの生き物に悪い影響を与えています。日南町も例外ではなく、自然環境の劣化、それによる生き物への影響がみられます。生き物と共存していくためには、その生き物のことを知ることが大切です。本書は、日南町のみなさんに日南町で生きる希少な生き物を知ってもらおうキッカケになることを目的として編集しました。

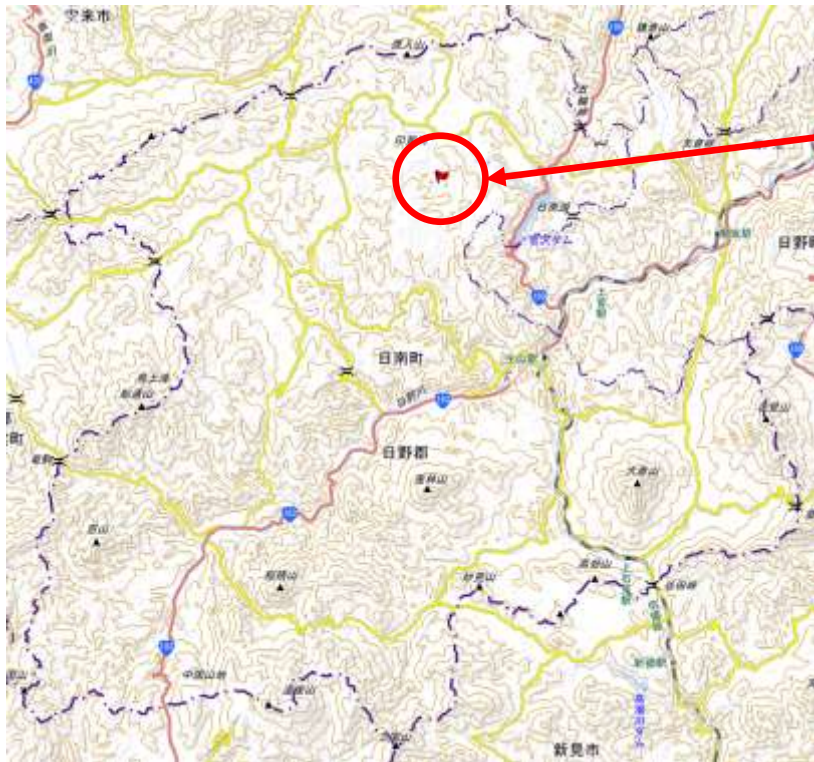
2 本書の見方

(1) 植物の並び順

DNA解析に基づく分類体系(APG植物分類体系)に沿って種を分類しました。ページが近い種ほど系統的(進化的)に近い関係にあります。

(2) 生育地の表示

生育場所を赤旗で示しました。生育地を公表すると盗掘される恐れがある種については、生育地を非公表としました。



生育場所

凡例

3 お願い

生き物を別の場所に移動させないでください。

生き物は、進化的にそれぞれ異なった背景をもっています。暮らす場所がそのままその生き物の歴史を反映しています。生き物を別の場所に移したり、暮らす場所を奪うことは、その生き物のこれまでとこれからの歴史を奪うことです。数が多い生き物なら、残った個体から回復することができるかもしれませんが。しかし、この図鑑で紹介する種は、既に個体数が減少し、替えがきかない生き物たちです。

チャイロカワモズク	カワモズク科	カワモズク属	鳥取県	
学名	<i>Batrchospermum arcuatum</i> Kylin		環境省	準絶滅危惧
			その他重要種	○

■特徴

晩秋～早春にかけて、湧泉や湧水の流入する河川や水路の石などに着生する淡水産の紅藻。

■生育地及び生育状況

福塚地区の小溪流に数個体自生している。

■保護上の留意点

環境の変化に大きな影響を受ける。
 ・生育溪流への濁水流入を防止すること。
 ・生育溪流の改変を防止すること。

■特記事項



福塚(2017.3.7)／撮影: 矢田貝 繁明



福塚(2016.5.3)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



福塚(2016.5.5)／撮影: 矢田貝 繁明

イワヒバ	イワヒバ科	イワヒバ属	鳥取県 環境省	準絶滅危惧(NT) —
学名	<i>Selaginella tamariscina</i> (P.Beauv.) Spring		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い断崖などの岩上に生育する常緑のシダ植物。「イワマツ」と呼ばれ園芸用採取の対象となっている。分布域は、北海道から沖縄。

■生育地及び生育状況

日野上地区と多里地区に自生地がある。両自生地とも生育環境は良好であるが、個体数が少ない。生育個体は、多里地区では1個体、日野上地区では数十個体である。

■保護上の留意点

盗採を防止すること。

■特記事項



日野上(2016.9.5)／撮影:日南町



日野上(2014.4.19)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



多里(2008.8.29)／撮影:矢田貝 繁明

ヤシャゼンマイ	ゼンマイ科	ゼンマイ属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
			環境省	—
学名	<i>Osmunda lancea</i> Thunb.		その他重要種	

■特徴

山地溪流沿いの岩上に生育する夏緑性シダ植物。ゼンマイによく似ているが、ゼンマイより葉の幅が狭い。小羽片が狭楕円形、先端と基部は鋭くとがり、やや硬厚質である。分布域は、北海道、本州(中部地方以北)、鳥取県内の個体群は、国内分布の西限にあたりと考えられている。

■生育地及び生育状況

「カワナンテン」と呼ばれ園芸目的採取と菅沢ダム建設によりほぼ絶滅した。現在自生しているのは数個体だけである。

■保護上の留意点

- ・厳重に盗採を防止すること。
- ・自生地を非公開とすること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



非公表(2014.7.10)／撮影: 矢田貝 繁明



非公表(2008.5.8)／撮影: 藤原 文子

タキミシダ	イノモトソウ科	タキミシダ属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
			環境省	絶滅危惧 I B類(EN)
学名	<i>Antrophyum obovatum</i> Baker		その他重要種	

■特徴

全国的にも生育の稀なシダ植物。やや陰湿な溪流沿いの岩場などに生育する常緑のシダ植物。葉は倒卵形で厚皮質で全縁。

■生育地及び生育状況

県内での生育も稀である。町内の自生地は、1個体のみで生育基盤も脆弱である。

■保護上の留意点

- ・盗採を防止すること。
- ・自生地を非公表とすること。
- ・河川工事などで消滅するのを防止すること。

■特記事項

鳥取県指定特定希少野生動植物
自生地は非公表とする。



非公表(2016.12.19)／撮影: 矢田貝 繁明



生育状況(2016.12.19)／撮影: 矢田貝 繁明

ツルデンダ	オンダ科	イノデ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU) —
学名	<i>Polystichum craspedosorum</i> (Maxim.) Diels		その他重要種	

■特徴

山地の陰湿な岩上に生育する小型のシダ植物。葉の先端の無性芽から新しい個体をつくり、増えていく。

■生育地及び生育状況

県内でも自生地は少なく、西部地区では日南町だけに生育している。湯河地区の滝の岩壁に自生しており、個体数も10数個体とわずかである。

■保護上の留意点

渓谷沿いの岩場及びその周辺の自然植生を維持すること。

■特記事項



多里(2015.12.30)／撮影: 矢田貝 繁明



多里(2016.5.5)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



多里(2016.5.5)／撮影: 矢田貝 繁明

イチイ	イチイ科	イチイ属	鳥取県 環境省	その他の保護上重要な種(OT) —
学名	<i>Taxus cuspidata</i> Siebold et Zucc.		その他重要種	

■特徴

常緑の針葉樹で高木となる。高さ20m、直径1mほどになる。花は雌雄別株、まれに同株。花期は3～5月。変種として大山地域以東には、樹高が高くないキャラボクが生育している。分布域は、北海道、本州、四国、九州、アジア北東部。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では日南町だけに生育している。船通山の山頂の大木は有名である。岩樋山から道後山にかけて多く生育している。

■保護上の留意点

樹齢の長い樹木であるので、伐採されなければ、保全上の問題はない。

■特記事項

「船通山のイチイ」は国指定天然記念物である。



(2014.8.7)／撮影: 矢田貝 繁明



船通山(2014.9.23)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



多里(2013.5.3)／撮影: 矢田貝 繁明

ジュンサイ	ジュンサイ科	ジュンサイ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU) —
学名	<i>Brasenia schreberi</i> J.F.Gmel.		その他重要種	

■特徴

溜め池に生育する暖帯性の多年生植物。茎や葉柄、葉の裏面などが粘質物に覆われている。葉は水面に浮かび、長さ5～10cmの楕円形で、裏面は紫色を帯びる。若芽は吸い物材料として採取される。花期は5～8月で、水面で開花する。分布域は、日本全土。

■生育地及び生育状況

印賀地区のため池に100㎡前後自生しているが、自生地にアシが侵入してきている。

■保護上の留意点

溜め池の状態を維持すること。

■特記事項



大宮(2011.8.14)／撮影: 矢田貝 繁明



(2015.6.29)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



(2015.6.29)／撮影: 藤原 文子

コウホネ	スイレン科	コウホネ属	鳥取県 環境省	準絶滅危惧(NT) —
学名	<i>Nuphar japonica</i> DC.		その他重要種	

■特徴

ため池と用水路に群生するやや大型の抽水性多年生草本。葉は2型あり、水中葉は細長く膜質。水上に出る葉は長卵形で20～30cm。花は、黄色で長い花柄の先に1個つく。花期は6～9月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

印賀地区の溜め池跡地などに自生している。古い溜め池内に30㎡程度群生しているが、自生地にアシが侵入してきており、今後被圧される恐れがある。

■保護上の留意点

アシなどの侵入を防止すること。

■特記事項



大宮(2008.8.22)／撮影：藤原 文子



大宮(2008.8.22)／撮影：藤原 文子



日南町内の分布



(2016.7.5)／撮影：矢田貝 繁明

ヒツジグサ	スイレン科	スイレン属	鳥取県 環境省	準絶滅危惧(NT) —
学名	<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い溜め池に生育する多年生の浮葉植物。葉は広い楕円形で長さ10～20cm、基部は深いハート形で、水面に浮かぶ。花は白色で、直径5cm、日中に開いて夜になると閉じる。花の後に水中で球形の液果が成熟する。花期は6～9月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

印賀地区のため池などにある程度の個体数(20個体程度)が自生しており、生育環境は良好である。

■保護上の留意点

溜め池の環境を維持すること。

■特記事項



(2015.9.3)／撮影:藤原 文子



(2015.9.3)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



大宮(2012.8.18)／撮影:矢田貝 繁明

ウスバサイシン	ウマノスズクサ科	カンアオイ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Asarum sieboldii</i> Miq.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地のやや湿った岩壁の隙間や土壁に生育する夏緑性多年生草本。茎は地をはい、先に長柄の葉を2枚出す。葉は5~8cmの円心形で先は鈍い。花は直径約1.5cmの淡褐色。花期は3~5月。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

聖滝付近と宝谷地区の溪岸に生育している。両地区ともに生育個体数は少ない。聖滝周辺では2~3個体、宝谷では10個体前後である。生育環境は良好である。

■保護上の留意点

現状の生育環境を維持すること。

■特記事項



大宮(2016.4.29)／撮影:藤原 文子



大宮(2015.4.29)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



大宮(2016.4.29)／撮影:日南町

ヒメカンアオイ	ウマノスズクサ科	カンアオイ属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
			環境省	—
学名	<i>Asarum takaoi</i> F.Maek.		その他重要種	

■特徴

山地の谷沿いや社叢などのやや暗い林地に生育する小型の常緑多年生草本。葉は卵円形～腎円形で長さ5～8cm。花期は11～3月。分布域は、本州、四国。

■生育地及び生育状況

県内での自生地は稀である。日南町内には聖滝周辺と菅沢神社社叢に自生している。聖滝周辺では、滝までの山道沿いに100本以上生育している。菅沢神社では、スギ林の中で被圧されており、個体数も30本前後と少ない。

■保護上の留意点

自生地の環境を維持すること。

■特記事項



(2015.4.8)／撮影:藤原 文子



大宮(2016.4.29)／撮影:日南町



日南町内の分布



山上(2012.6.6)／撮影:矢田貝 繁明

ヒロハテンナンショウ	サトイモ科	テンナンショウ属	鳥取県 環境省	準絶滅危惧(NT) —
学名	<i>Arisaema ovale</i> Nakai var. <i>sadoense</i> (Nakai) J.Murata		その他重要種	

■特徴

ブナ帯域の林下に生育する小型の多年生草本。高さ15～50cm。葉は1枚、小葉5～7枚がやや掌状につく。花は葉より下につく。仏炎苞は黄緑色で光沢がある。花期は5～6月。分布域は、北海道(日本海側)、九州(北部)。

■生育地及び生育状況

日野川源流域で稀に生育している。日野川源流域では10個体程度が点在して生育している。花見山には5個体くらい生育している。

■保護上の留意点

道路沿いの草刈りなどに注意が必要である。結実前に草刈りされることが多い。

■特記事項



大山(2012.5.31)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



大山(2012.6.4)／撮影: 藤原 文子

ヒメザゼンソウ	サトイモ科	ザゼンソウ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧 I 類(CR-EN) —
学名	<i>Symplocarpus nipponicus</i> Makino		その他重要種	

■特徴

山地の湿地に生育する多年生草本。ウバユリに似た形状をしている。高さ10～20cm。葉は早春に根出する。葉は卵状長楕円形で長さ20～40cm。肉厚で全縁。両面無毛で6月頃に枯れる。花は葉が枯れるころに開花する。花は暗紫色で、頭巾状をしている。花期は5～6月。分布域は、北海道、本州(日本海側)

■生育地及び生育状況

鳥取県では日南町のみで自生する。福栄地区のサクラソウ自生地周辺と大入峠付近に自生地がある。どちらの自生地も個体数は多い。特に大入峠付近は生育地が数カ所に渡って点在しており、個体数も数百個体程度ある。

■保護上の留意点

生育地の湿原の環境を維持管理すること。

■特記事項



山上(2008.6.10)／撮影:藤原 文子



山上(2016.5.27)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



山上(2016.4.6)／撮影:矢田貝 繁明

アギナシ	オモダカ科	オモダカ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Sagittaria aginashi Makino</i>		環境省	準絶滅危惧(NT)
			その他重要種	

■特徴

葉より高い位置に白い花を咲かせる。花期は6～10月。クワイやオモダカによく似ているが、葉の先端部が丸いことや根元に多数のムカゴがつくことで見分けることができる。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

日当たりの良い溜め池跡地や休耕田跡地などの湿地に生育している。県内でも生育地は少ない。印賀地区の休耕田跡地と溜め池跡地に生育しているが、両箇所とも10個体前後と個体数は少ない。大型植物のアシが侵入してきており、被圧されるおそれがある。

■保護上の留意点

- ・湿地の環境を維持すること。
- ・大型草本のアシや灌木の侵入や拡大を防止すること。

■特記事項



大宮(2015.8.4)／撮影: 矢田貝 繁明



大宮(2008.8.16)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布

ミズオオバコ	トチカガミ科	ミズオオバコ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅰ類(CR-EN)
			環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.		その他重要種	

■特徴

水田や溜め池などの水中に生育する1年生水性草本。葉は水中にあり、葉身は長さ10～30cm、幅2～15cmの広披針形で長い柄があり、ふちは波状に縮れる。花は白色または淡紅紫色、直径2～3cm。葉の間から花茎を伸ばし、水面につく。花期は8～10月。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

佐木谷地内の湿田跡地で数個体の生育を確認しているが、自生か栽培か不明である。スイレンやクワイも生育しているので、栽培による移入の可能性が高い。自生であれば貴重な生育地である。

■保護上の留意点

自生地の環境を維持すること。

■特記事項



米子市(2008.8.22)／撮影:藤原 文子



米子市(2008.8.22)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



山上(2016.9.15)／撮影:矢田貝 繁明

バイケイソウ	シュウロソウ科	シュロソウ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Veratrum album</i> L. subsp. <i>oxysepalum</i> (Turcz.) Hultén		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の湿地などに生育する大型の多年生草本。茎は高さ0.6～1.5m。葉は互生し、広楕円形で長さ20～30cm。茎頂に太い円錐花序を立て、白色の花を多数密につける。花期は6～8月。有毒の植物で、オオバギボウシを食用とする地域ではギボウシの新芽と間違える恐れがあり注意が必要である。分布域は、北海道、本州(中部以北)。

■生育地及び生育状況

上萩山地区の人家横と岩樋山湿原に自生地がある。上萩山地区の人家横では、生育個体数は100本以上と多いが、草刈りなどの影響で花は少ない。岩樋山湿原は、生育環境が良好で、100本以上自生している。

■保護上の留意点

自生している湿原環境を維持すること。

■特記事項



岩樋山(2010.6.17)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



岩樋山(2013.5.3)／撮影: 矢田貝 繁明

カタクリ	ユリ科	カタクリ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Erythronium japonicum</i> Decne.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

ブナ帯域の草原や樹林下に群生する小型の多年生草本。葉はふつう2個。花径は高さ20～30cm。茎頂に1個の花を下向きにつける。花は淡紅紫色で、上方へ強く反り返る。花期は3～5月。日南町では、早春に葉を展開し5月の連休頃に開花する。5月中旬には、実だけを残し消える。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

船通山山頂部に群生地がある。保護管理が行われ以前より個体数が増えた。自生地の大部分は島根県に属している。

■保護上の留意点

自生している草地を維持すること。

■特記事項



(2016.4.8)／撮影：藤原 文子



日南町内の分布



(2012.5.6)／撮影：藤原 文子



船通山(2010.4.29)／撮影：矢田貝 繁明

エビネ	ラン科	エビネ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Calanthe discolor</i> Lindl.		その他重要種	

■特徴

山地の広葉樹林内や針葉樹林内に生育する常緑のラン科草本。葉は2～3個根生する。花径の高さは30～50cm。多数の花が総状につく。花期は4～5月。乱獲によって、全国的に減少している。分布域は、北海道(西南部)、本州、四国、沖縄。

■生育地及び生育状況

人家の庭で多く見かけるが、多くは採取してきたものと思われる。町内での生育地は多いと思われるが、確認済みの自生地は、山上地区や多里地区にありいずれも個体数は10株前後と少ない。

■保護上の留意点

- ・盗掘を防止すること。
- ・造林地内に自生していることが多いので、間伐作業道などを開設するときは、生育範囲を回避すること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2008.5.23)／撮影:藤原 文子



山上(2012.5.19)／撮影:矢田貝 繁明



(2008.5.25)／撮影:藤原 文子

キエビネ	ラン科	エビネ属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
			環境省	絶滅危惧 I B類(EN)
学名	<i>Calanthe striata</i> R.Br.		その他重要種	

■特徴

山地暖温帯林に生育する常緑の多年生ラン科草本。黄色い花を咲かせる。花期は4～5月。日南町では、5月中旬頃に花を咲かせる。エビネに似ているが、大型で、葉の幅が広く長さも長い。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

国内でも自生地が激減して、ほとんどない希少な種である。過去には多く生育していたが、かつてのエビネブームの時乱獲され、現在では自生は稀である。日南町内には県下でも稀な自生地がある。個体数は10株前後である。現在の生育環境は良好である。

■保護上の留意点

- ・自生地を非公開とすること。
- ・厳重に盗掘を防止すること。

■特記事項

鳥取県指定特定希少野生動植物
自生地は非公開とする。



非公表(2015.5.18)／撮影:矢田貝 繁明



非公表(2015.5.27)／撮影:矢田貝 繁明

キンセイラン	ラン科	エビネ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅰ類(CR-EN)
			環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Calanthe nipponica</i> Makino		その他重要種	

■特徴

山地の林内に生育する常緑の多年生草本。個体数は少ない。また、園芸用採取のため激滅している。葉は広い被針形で5~6枚つく。淡黄色の花を7~10個つける。スギの人口林内に生育していることが多い。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

日南町内のスギ人口林内に生育しているが、いずれの生育地も個体数が少なく、減少傾向にある。2010年頃は、20株近く見られたが次第に減少し、現在では2~3株に減少した。

■保護上の留意点

- ・自生地の非公開と盗採防止
- ・林業作業(間伐など)時に刈り取らないこと。

■特記事項

自生地は非公表とする。



生育地の環境(2014.7.10)／撮影:矢田貝 繁



非公表(2008.6.26)／撮影:矢田貝 繁明

キンラン	ラン科	キンラン属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume		その他重要種	

■特徴

山野の林内に生える多年生草本。高さ40～80cm。葉は互生し、長さ8～15cm、幅2～4.5cmの広披針形で数脈がある。基部は茎を抱く。花は黄色で半開する。花期は4～6月。分布域は本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

2008年までは生育を確認していたが、それ以降については確認できていない。

■保護上の留意点

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2008.5.23)／撮影: 藤原 文子



(2008.6.11)／撮影: 藤原 文子



(2015.5.17)／撮影: 藤原 文子

ササバギンラン	ラン科	キンラン属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
学名	<i>Cephalanthera longibracteata</i> Blume		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地のやや乾いた明るい林内や道端に生育する多年生草本。群生することなく単体で生育していることが多い。高さ30～50cm。茎の稜上、葉の裏面やふち、花序、子房に白い短毛状の突起がある。葉は長さ7～15cmの狭長楕円形で、先は鋭くとがり、脈はしわ状に隆起する。花は白色。花期は5～6月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

石見地区、福栄地区で2007年までは確認していたが、その後は自生を確認できていない。ササなどによる被圧が原因で消滅した可能性がある。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項

鳥取県指定特定希少野生動植物
自生地は非公表とする。



大山(2016.5.29)／撮影:藤原 文子



大山(2016.5.29)／撮影:藤原 文子



(2014.7.10)／撮影:矢田貝 繁明



(2007.6.8)／撮影:藤原 文子

セッコク	ラン科	セッコク属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	—
学名	<i>Dendrobium moniliforme</i> (L.) Sw.		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い岩上や樹幹に着生する多年生草本。高さ10～30cm。葉は互生。葉の落ちた節から細い花茎を出し、白色～淡紅色の花を1～2個つける。花期は5～6月。日南町では、6月上旬頃、白い花を咲かせる。分布域は、本州、四国、九州、沖縄。

■生育地及び生育状況

生山地区の花崗岩地帯に自生している。過去に園芸用採取で乱獲されたため、激減した。確認できている自生地では、10個体前後である。調査をすれば確認個体数は増える可能性がある。手の届かない場所には健全な個体もあるが、手が届く範囲では、幼苗がわずかに自生しているだけである。

■保護上の留意点

盗採の防止を図ることが重要。

■特記事項

鳥取県指定特定希少野生動植物



(2010.6.7)／撮影: 矢田貝 繁明



(2015.6.3)／撮影: 矢田貝 繁明

オニノヤガラ	ラン科	オニノヤガラ属	鳥取県 環境省	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Gastrodia elata</i> Blume var. <i>elata</i>		その他重要種	—

■特徴

雑木林内や道端などに生育する葉緑素を持たない腐生植物(菌従属栄養植物)。ナラ菌と共生していると考えられている。花茎は高さ0.6~1mで、黄赤色を帯びる。花は黄褐色。花期は6~7月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

福栄、多里地区などで稀に生育しているがほとんど単独で生育している。ナラ菌と共生していると考えられ、やや薄暗い環境であればどこでも出現する可能性がある。

■保護上の留意点

菌に依存しており、移植等が困難である。生育環境を維持することが重要である。

■特記事項



福栄(2016.6.27)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



ミヤマウズラ	ラン科	シュスラン属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Goodyera schlechtendaliana</i> Rchb.f.		その他重要種	

■特徴

広葉樹林内や岩上などに自生する小型の常緑の多年生草本。茎は高さ10～20cm。葉は互生、やや肉厚で全縁。長さ3～5cm。基部はくさび形。花茎は高さ15cm。一方に偏った穂状に5～10個の淡紅色の花をつける。花期は8～9月。鳥取県内では広く分布する。分布域は、北海道中部～九州。

■生育地及び生育状況

町内では1箇所のみ確認しているが、個体数は少ない。日南町内の調査が進めば生育地は増えると考えられる。現在は、大宮地区に数本の自生地があるだけである。上層木による被圧などで消滅する恐れがある。

■保護上の留意点

間伐や作業道を設置するときに生育箇所を回避すること。

■特記事項

生育地は非公表とする。



(2014.8.18)／撮影: 藤原 文子



(2008.8.27)／撮影: 藤原 文子



(2008.8.27)／撮影: 藤原 文子

ミズトンボ	ラン科	ミズトンボ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Habenaria sagittifera</i> Rchb.f.		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い湿地に生育する多年生草本。茎は高さ40～70cm。葉は線形で長さ5～20cm。茎上部に総状花序を立て、淡緑色の花を多数つける。花期は7～9月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

過去には多く生育していたらしいが、2011年以降生育を確認できない。

■保護上の留意点

湿原環境を維持すること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2008.8.30)／撮影：矢田貝 繁明

クモキリソウ	ラン科	クモキリソウ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Liparis kumokiri</i> F.Maek.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

低地から山地にかけての林床に生育する多年生草本。葉は2個、広卵形で長さ約10cm、ふちは細かく波打ち、葉脈の網目ははっきりしない。花径は高さ10～20cm。5～15個の花をつける。花は淡緑色または黒褐色。唇弁は反り返る。花期は6～8月。分布域は、日本全土。

■生育地及び生育状況

多里地区で数個体ずつの自生を確認しているが、群落は少ない。

■保護上の留意点

盗採を防止すること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2016.6.22)／撮影: 藤原 文子



(2016.7.7)／撮影: 矢田貝 繁明



(2007.6.24)／撮影: 矢田貝 繁明

サギソウ	ラン科	サギソウ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧 I 類(CR-EN) 準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Pecteilis radiata</i> (Thunb.) Raf.		その他重要種	

■特徴

山地の日当たりの良い湿地に生育する多年生草本。花がシラサギが翼を広げたような形をしていることから名前が付けられた。高さ15～40cm。葉は互生し、下部のものほど大きく、長さ5～10cm。花は1～4個つき、白色で直径約3cm。花期は8月。園芸用としても人気が高い。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

園芸用採取と生育環境の悪化により激減し、自生地は県内でも極めて少ない。自生地はオオミズゴケが生育している湿地である。生育本数は30本前後と個体数は少ないが、10年前にくらべると個体数は増加傾向にある。

■保護上の留意点

- ・厳重に盗採を防止すること。
- ・生育環境を保全すること。

■特記事項

鳥取県指定特定希少野生動植物
自生地は非公表とする。



非公表(2013.8.9)／撮影: 矢田貝 繁明



非公表(2016.7.30)／撮影: 矢田貝 繁明



非公表(2014.6.15)／撮影: 矢田貝 繁明

ミズチドリ	ラン科	ツレザキソウ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧 I 類(CR-EN) —
学名	<i>Platanthera hologlottis</i> Maxim.		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い山地湿原に生育する多年生草本。茎は高さ50～90cm。葉は5～12枚互生し、下部の葉は線状被針形で長さ10～20cm。穂状の花序に白色の花を多数つける。花には芳香がある。花期は6～7月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

県内での自生地は少なく、日南町の自生地は貴重である。「日野郡生物誌」によると福栄地区などに多いと記載されているが、現在ではほぼ絶滅状態である。

■保護上の留意点

- ・生育地の湿原の環境を維持すること。
- ・イノシシによる掘り起こしを防止すること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2014.7.15)／撮影：矢田貝 繁明

トキソウ	ラン科	トキソウ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Pogonia japonica</i> Rchb.f.		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い山地湿原に生育する小型の多年生草本。茎は高さ10～30cm。葉は茎の中部に1個つき、長さ4～10cm。茎頂に淡紅色の花を横向きに1個つける。花期は5～7月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

印賀地区の湿原に50個体前後自生しているが、アシが侵入してきており、被圧される恐れがある。また園芸目的の採取も懸念される。

■保護上の留意点

- ・盗採を防止すること。
- ・湿原環境を維持すること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2007.6.30)／撮影: 矢田貝 繁明



(2013.6.16)／撮影: 矢田貝 繁明

ヤマトキシウ	ラン科	トキシウ属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
学名	<i>Pogonia minor (Makino) Makino</i>		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

日当たりの良い山地草地や林縁などに生育する小型の多年生草本。茎は高さ10～20cm。茎の中央より少し上に葉を1枚つける。葉はやや厚く肉質、長楕円形で長さ3～7cm、幅4～15mm。茎の先端に上向きに淡紅色の花を1個つける。トキシウに似るが、花は小型で上を向く。花期は6～8月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

生育地の草地に数個体が自生しているが、周辺の木本に被圧される恐れがある。

■保護上の留意点

- ・盗採を防止すること。
- ・自生草原の林地化を防止すること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2013.7.11)／撮影: 矢田貝 繁明



(2014.7.15)／撮影: 矢田貝 繁明

ヒツボクロ	ラン科	ヒツボクロ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Tipularia japonica</i> Matsum.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の樹林内に生育する小型の多年生草本。葉は1枚、長卵形で長さ4～7cm。花径は細く、高さ15～25cm。小さな花を数個つける。花期は5～6月。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

阿毘縁地区の島根県境付近に自生地があったが、現在では確認できない。生山地区のアカマツ林などには生育の可能性がある。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2009.6.19)／撮影: 矢田貝 繁明



(2016.6.20)／撮影: 矢田貝 繁明



(2010.11.1)／撮影: 矢田貝 繁明

ショウキラン	ラン科	ショウキラン属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Yoania japonica Maxim.</i>		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

ブナ帯域の林内や溪流沿いの腐植堆積地に生育する葉緑素を持たない腐生(菌従属栄養)植物。茎は直立し、高さ10~30cm。乳白色でやや淡紅色を帯びる。茎頂に数個の淡紅色の花をまばらにつける。花期は7~8月。分布域は、北海道(西南部)、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

過去に日野川源流域で生育を確認したが、現在は確認できない。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2012.6.12)／撮影: 矢田貝 繁明



(2009.6.13)／撮影: 矢田貝 繁明

ノハナショウブ	アヤメ科	アヤメ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto		その他重要種	

■特徴

湿原や湿った草原に生育する多年生草本。花径は高さ0.4～1m。葉は長さ30～60cm、太い中中脈が目立つ。花茎は高さ0.4～1m。花は赤紫色。花期は5～6月。分布域は北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

特に印賀地区に多く自生している。湿地状態の場所や荒廃した休耕田跡などにも自生しているが、アシの侵入が懸念される。個体数は多くない。印賀地区では数十本の自生があるが、岩樋山地区では5本以下である。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



大宮(2008.7.3)／撮影: 矢田貝 繁明



(2014.7.6)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



大宮(2013.6.24)／撮影: 矢田貝 繁明

オオキツネノカミソリ	ヒガンバナ科	ヒガンバナ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Lycoris sanguinea</i> Maxim. var. <i>kiushiana</i> (Makino) Makino ex Akasawa		その他重要種	

■特徴

低山の林縁や道端に生育する多年生草本。高さ30～40cm。夏になると枯れる。葉が枯れた後、花茎が伸びて高さ30～50cmになる。黄赤色の花を散形状に3～5個つける。雄しべが花弁より突き出る。キツネノカミソリより花期が少し早く、やや大型。花期は8～9月。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

日南町内では、若杉地区や木谷地区の林道沿いなどの半日陰に自生している。両地区とも、上層の樹木による被圧が懸念される。

■保護上の留意点

草原等の自生環境を維持すること。

■特記事項



若杉(2015.8.9)／撮影:藤原 文子



多里(2015.8.9)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



日野上(2014.8.7)／撮影:矢田貝 繁明

ミドリヨウラク	キジカクシ(クサギカズラ)科 アカドコロ属	鳥取県	
学名	<i>Polygonatum inflatum</i> Kom.	環境省	
		その他重要種	○

■特徴

中国・四国・九州の限られた地域に稀に生育する多年生草本。茎は高さ30～70cm、稜各角がある。葉腋から花柄を下垂し、花柄の先に淡緑色の花を3～7個かたまってつける。花期は6～7月。分布域は、本種(中国地方)、四国、九州、朝鮮半島、中国。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では日南町のみで生育する。自生地は1カ所だけで、スギ人口林内に数十本が生育している。生育個体数は少なく、隣接地を探しても見つからない。毎年自生地周辺のササを刈るなどの管理をしており、生育状況は良好である。

■保護上の留意点

間伐や作業道を設置するときに生育箇所を回避すること。

■特記事項

レッドデータブック次回改訂時に、絶滅危惧種に指定される見込み。



山上(2016.6.12)／撮影: 矢田貝 繁明



山上(2011.6.23)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布

ヒメミクリ	ガマ科	ミクリ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅰ類(CR-EN)
			環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Sparganium subglobosum</i> Morong		その他重要種	

■特徴

溜め池や流水などに生育するやや大型の多年生抽水草本。ヤマトミクリに比べやや小さい。高さ50～90cm。花期は6～9月。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

県内での生育地は稀で印賀地区の自生地も減少しつつある。年によって出現数が変わるが、多くても20個体以下で少ない時は全く出現しない。

■保護上の留意点

陸地化や他の植物による被圧を避け、自生地の環境を維持すること。維持作業による攪乱で、発芽することも期待される。

■特記事項



(2008.8.1)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



(2008.8.1)／撮影:藤原 文子

ヤマトミクリ	ガマ科	ミクリ属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
学名	<i>Sparganium fallax</i> Graebn.		環境省	準絶滅危惧(NT)
			その他重要種	

■特徴

溜め池や流水に生育する中型の多年生の抽水草本。高さは50～120cm。花序は分枝せず、上方に4～8個の雄性頭花が、下方に3～6個の雌性頭花が互いに離れてつく。花は白色。花期は6～9月。ミクリは、種類が多く種の同定が難しい。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

印賀地区と阿毘縁地区の水路内や溜め池に生育している。印賀地区の水路内に20個体前後自生している。生育状況は良好であるが、水路掃除の際に抜取らないなど注意が必要である。阿毘縁地区では、ゆきんこ村の溜め池に50個体前後生育している。

■保護上の留意点

生育している湿原や用水路の環境を維持すること。

■特記事項



阿毘縁(2013.7.17)／撮影: 矢田貝 繁明



印賀(2008.7.24)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布

オオカワズスゲ	カヤツリグサ科	スゲ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Carex stipata</i> Muhl. ex Willd.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

北海道や本州中部以北の水辺や湿地に叢生するスゲ。高さ30～60cm。花期は6～7月。分布域は、北海道、本州。

■生育地及び生育状況

県内では、日野町の1カ所と日南町内の2カ所の生育地が知られているだけである。日南町内では、ゆきんこ村地内と谷中地区に自生地があるが、ともに他の植物が侵入してきている。

■保護上の留意点

- ・湿地の環境を維持すること。
- ・大型草本のアシや灌木の侵入や拡大を防止すること。

■特記事項



阿毘縁(2011.6.23)／撮影: 矢田貝 繁明



阿毘縁(2015.7.4)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



阿毘縁(2015.7.3)／撮影: 矢田貝 繁明

オタルスゲ	カヤツリグサ科	スゲ属	鳥取県 環境省	準絶滅危惧(NT) —
学名	<i>Carex otaruensis</i> Franch.		その他重要種	

■特徴

山地のやや湿った場所に叢生するスゲ。山間部の溪流沿いなどに生育している。高さ30～60cm。花期は5～6月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

福栄地区の奥地、阿毘縁地区(ゆきんこ村)に自生している。両地区共に、水が滲み出すような場所に生育しているが、個体数は10個体以下と少ない。

■保護上の留意点

林道横などの草刈り時に、刈らないようにすること。

■特記事項



若杉(2015.7.4)／撮影:矢田貝 繁明



若杉(2016.9.16)／撮影:日南町



日南町内の分布



若杉(2015.7.4)／撮影:矢田貝 繁明

オニスゲ	カヤツリグサ科	スゲ属	鳥取県 環境省	準絶滅危惧(NT) —
学名	<i>Carex dickinsii</i> Franch. et Sav.		その他重要種	

■特徴

山地の湿地や溜め池などに群生する中型のスゲ。多年生草本で高さ20～50cm。花期は5～7月。果胞が10mm程度のイガ状になり見分けやすいスゲ。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

印賀、阿毘縁、山上地区に自生地があり、個体数も多い。各自生地とも湿地や休耕田の跡地で10株以上確認できる。生育個体は多いが、やがて木本の生長によって被陰され、衰退するものと思われる。

■保護上の留意点

- ・湿地の環境を維持すること。
- ・大型草本のアシや灌木の侵入や拡大を防止すること。

■特記事項



日南町内の分布



大宮(2008.7.21)／撮影:藤原 文子



大宮(2008.7.19)／撮影:矢田貝 繁明



大宮(2008.7.4)／撮影:矢田貝 繁明

コマツカサススキ	カヤツリグサ科	アブラガヤ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Scirpus fuirenoides Maxim.</i>		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

日当たりの良い湿地に生育する多年生草本。溜め池跡地や荒廃した休耕田などに生育している。茎は高さ0.8～1.2m。花期は8～10月。分布域は、本州、九州。

■生育地及び生育状況

印賀地区の湿原や休耕田跡に生育している。30個体程度は生育しており個体数はやや多い。自生地にアシが侵入してきており、今後被圧される恐れがある。呼子地区の谷止工堆砂敷にも生育しているが土砂の堆積が進めば埋没の可能性もある。

■保護上の留意点

湿原環境を維持すること。

■特記事項



日南町内の分布



(2010.8.8)／撮影:藤原 文子



(2012.8.4)／撮影:矢田貝 繁明



(2010.8.8)／撮影:藤原 文子

ヒロハヘビノボラズ	メギ科	メギ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Berberis amurensis</i> Rupr.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

主に蛇紋岩地帯などの山地に生育する落葉低木。高さ3m、直径5cmほどになる。葉は互生で、短枝の先に集まってつく。葉は両面とも無毛。葉のふちには、刺状の細かい鋸歯がある。花は黄色で、短枝の先に総状花序を出し、10数個垂れ下がってつく。花期は5～6月。分布域は、北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国東北部。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では日南町のみで自生する。個体数は少なく、湯河地区の若松鉱山跡地の岩山に10本前後自生しているだけである。また、湯河地区の県道横自生地は、1個体だけである。

■保護上の留意点

2016年には、わずかな自生地が道路の草刈りで刈られていた。維持管理に注意が必要である。

■特記事項



多里(2016.5.5)／撮影: 矢田貝 繁明



多里(2016.5.5)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



多里(2016.5.5)／撮影: 矢田貝 繁明

タンナトリカブト	キンポウゲ科	トリカブト属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Aconitum japonicum</i> Thunb. subsp. <i>napiforme</i> (H.Lév. et Vaniot) Kadota		その他重要種	

■特徴

山地の草地や林縁部に生育するやや大型の多年生草本。茎は高さ0.15～1.5m。葉は3全裂し、長さ幅とも5～15cm。よく似たサンヨウブシは深裂しない。花は、紫色で散房花序につき、下から順に咲く。花期は9～11月。分布域は、本州(近畿地方以西)、四国、九州。

■生育地及び生育状況

岩樋山山頂部などの草原に多く生育しており、生育環境の変化は少ない。個体数も岩樋山地区では数十個体、花見山山頂部で10個体前後と少なくはない。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



(2013.9.21)／撮影: 藤原 文子



(2011.9.27)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



(2014.9.28)／撮影: 藤原 文子

リュウキンカ	キンポウゲ科	リュウキンカ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>nipponica</i> H.Hara		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

高標高の多雪湿潤地に群生する多年生草本。高さ30～50cm。葉はフキのように丸く長さ5～10cm、浅い鋸歯がある。茎葉は小型。根生葉は長柄、厚くやや光沢がある。茎頂や上部葉腋に直径約2cm、鮮黄色の花を開く。花期は5～7月。日南町では、雪解けのときに開花する。分布域は、本州、九州。

■生育地及び生育状況

岩樋山湿原内に20株前後自生しているが、ヤマヤナギなどに被圧されて減少傾向にある。

■保護上の留意点

- ・盗採を防止すること。
- ・生育地の湿原の環境を維持すること。

■特記事項



道後山(2008.5.3)／撮影:藤原 文子



道後山(2008.5.3)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



岩樋山(2013.5.3)／撮影:矢田貝 繁明

サンインシロカネソウ	キンポウゲ科	シロカネソウ属	鳥取県	その他の保護上重要な種(OT)
			環境省	—
学名	<i>Dichocarpum nipponicum</i> (Franch.) W.T.Wang et P.K.Hsiao var. <i>sarmentosum</i> (Ohwi) Tamura et K.Kosuge		その他重要種	

■特徴

山陰から北陸にかけての日本海側に分布する。山地溪谷沿いの湿潤地に生育する小型の多年生草本。高さ10～15cm。花期は3～4月。分布域は、本州(島根県～福井県の日本海側)。

■生育地及び生育状況

町内各地に点在する。水のしたたるような湿潤な環境に生育している。船通山及び木谷地区に自生している。船通山では、登山道入り口付近に点在している。木谷地区では、小範囲の群生地がある。共に生育環境は良好である。

■保護上の留意点

生育地の環境を維持すること。

■特記事項



多里(2011.4.12)／撮影: 矢田貝 繁明



(2015.3.22)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



多里(2015.4.8)／撮影: 矢田貝 繁明

ミスミソウ	キンポウゲ科	スハマソウ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>japonica</i> Nakai		その他重要種	

■特徴

落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する小型の常緑多年生草本。葉は根生し、長柄があり、葉身は3浅裂し、先はとがる。花は、白色、淡紫色、淡青紫色、淡紅色など変異が多い。特に、日本海側のものは花が大きく、色も濃い。花期は3～4月。分布域は、本州(中部地方以北)、九州。

■生育地及び生育状況

印賀地区の県道沿いに自生地があるが、約20個体前後と個体数が少なく、ササの被圧が進んでいる。

■保護上の留意点

園芸目的の採取を防止すること。

■特記事項



大宮(2012.3.30)／撮影:藤原 文子



大宮(2016.3.31)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



大宮(2008.4.9)／撮影:藤原 文子

オキナグサ	キンポウゲ科	オキナグサ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. et C.Presl		環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			その他重要種	

■特徴

日当たりの良い草地や畦畔に自生する多年生草本。全体に長くて白い毛が多い。根生葉は2回羽状複葉で長い柄がある。高さ10cm程度で開花する。花は赤紫色で、花茎の先に1個下向きにつく。花期は4～5月。花の後にさらに伸びて高さ40cm程度になる。花が終わると白い綿毛のついた実をつける。

■生育地及び生育状況

日南町内には、数カ所の自生地があり、生育数は鳥取県内で一番多い。過去にはどこにでも生育していたが、圃場整備や草刈りをしなくなったことにより激減した。各生育地ともに管理されており、個体数の変化は少ない。

■保護上の留意点

土地所有者が希少性を承知している場所が多いので、盗採防止と草刈りなどの管理を依頼しておくことが重要。

■特記事項

鳥取県指定特定希少野生動植物



(2015.4.8)／撮影: 藤原 文子



(2014.4.19)／撮影: 矢田貝 繁明



(2016.9.16)／撮影: 日南町



(2014.6.9)／撮影: 矢田貝 繁明



(2015.4.8)／撮影: 藤原 文子

バイカモ	キンポウゲ科	キンポウゲ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧 I 類(CR-EN) —
学名	<i>Ranunculus nipponicus</i> Nakai var. <i>submersus</i> H.Hara		その他重要種	

■特徴

溜め池や水路に繁茂する常緑の沈水植物。湧水などのきれいな水と安定した水温が生育に必要である。県内自生地多くは湧水地の下流にある。茎は長さ1~2m。葉は沈水葉のみで3~4回3出複葉。葉液から花径を水上に伸ばし直径1.5~2cmの白い花を開く。花期は6~9月。分布域は、北海道、本州。

■生育地及び生育状況

日南町では、2016年に多里地区ではじめて発見された。2個体だけの自生であり、絶滅が懸念される。生育地が高規格道路の建設予定地に該当するため注意が必要である。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



(2008.8.5)／撮影: 矢田貝 繁明



多里(2016.9.5)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布

ベニバナヤマシャクヤク	ポタン科	ポタン属	鳥取県	絶滅危惧Ⅰ類(CR-EN)
			環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Paeonia obovata Maxim.</i>		その他重要種	

■特徴

山地の明るい林内に生育するやや大型の多年生草本。高さ30～50cm。葉は2～3個互生し、2回3出複葉。茎頂に直径4～5cmの淡紅色の花を1個つける。花期は4～6月。日南町では、6月中旬ごろに開花する。ヤマシャクヤクによく似ているが、花卉の色と開花時期が異なる。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では盗採により激減した。現在、鳥取県では日南町だけに自生する。自生地には、数本の自生が確認されている。生育状況は安定している。

■保護上の留意点

- ・厳重に盗掘を防止すること。
- ・生育地を非公表とすること。

■特記事項

自生地は非公表とする。



(2014.6.15)／撮影: 矢田貝 繁明



(2015.9.10)／撮影: 矢田貝 繁明



(2016.6.12)／撮影: 矢田貝 繁明

ヤマシャクヤク	ボタン科	ボタン属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Paeonia japonica</i> (Makino) Miyabe et Takeda		その他重要種	

■特徴

山地の落葉広葉樹林下や稜線などに生育する多年生草本。ややガレの多い場所に生育していることが多い。高さ30～60cm。葉は3～4個互生し、2回3出複葉。小葉は倒卵形で長さ5～12cm、裏面は帯白色。茎頂に直径4～5cmの白色の花を上向きに半開する。花期は4～6月。分布域は、本州(関東地方以西)、四国、九州。

■生育地及び生育状況

町内各地の落葉広葉樹林下などに点在しており、花が大きく目立つため盗採に注意する必要がある。

■保護上の留意点

- ・盗採を防止すること。
- ・間伐や作業道を設置するときに生育箇所を回避すること。

■特記事項



多里(2008.5.12)／撮影:矢田貝 繁明



多里(2010.5.4)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



多里(2015.5.10)／撮影:矢田貝 繁明

アテツマンサク	マンサク科	マンサク属	鳥取県 環境省	その他の保護上重要な種(OT) 準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Hamamelis japonica Siebold et Zucc. var. bitchuensis (Makino) Ohwi</i>		その他重要種	

■特徴

葉が出る前に黄色い花を多数つける。葉は互生で葉身6～14cm, 幅4～8cm。花期は3～4月。日南町内で見られるマンサクのうち、萼の色が黄色のものは、アテツマンサクである。鳥取県での分布は日南町から大山町までの鳥取県西部地域。分布域は、中国、四国、九州。

■生育地及び生育状況

日南町の大宮、山上、阿毘縁、石見、日野上地区など花崗岩地帯で土地のやや痩せた日当たりの良い山地に生育する。

■保護上の留意点

拡大造林が進めば生育地が消滅するので、生育環境を維持すること。

■特記事項



大宮(2016.3.26)／撮影: 矢田貝 繁明



大宮(2016.3.26)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



大宮(2015.5.6)／撮影: 藤原 文子

オニシモツケ	バラ科	シモツケソウ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Filipendula kamtschatica</i> (Pall.) Maxim		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

ブナ帯域の沢沿いや溪岸に生育する大型の多年生草本。高さ1~2m。葉は奇数羽状複葉。茎の先に散房花序を出し、白または薄い紅色がかかった色の直径6~8mmの花を多数つける。花期は7~8月。分布域は、北海道、本州(広島県、中部地方以北)

■生育地及び生育状況

豊栄地区の若杉川流域に多い。個体数も多く、大型の草本であるので、他の草本による被圧被害は少ない。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



若杉(2016.7.4)／撮影：日南町



若杉(2016.7.4)／撮影：日南町



日南町内の分布



若杉(2009.7.12)／撮影：矢田貝 繁明

オオウラジロノキ	バラ科	リンゴ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Malus tschonoskii</i> (Maxim.) C.K.Schneid.		その他重要種	

■特徴

自然林に点在する落葉高木。高さ10～15m、直径30～40cm。葉は互生。葉の先端はとがり、基部は円形または浅いハート形。葉のふちには不揃いな鋸歯がある。白いリンゴのような花が咲く。花期は5月。直径2～3cmのナシに似た実ができる。10月頃、黄緑色から淡紅色に熟す。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

呼子地区の広葉樹林内で数本の生育を確認している。若い個体が数本自生しているが周辺の木による被圧のおそれがある。



南部町(2015.5.28)／撮影: 矢田貝 繁明

■保護上の留意点

林業作業等で伐採しないようにすること。

■特記事項



とっとり花回廊(2013.11.2)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布

ズミ	バラ科	リンゴ属	鳥取県 環境省	準絶滅危惧(NT) —
学名	<i>Malus toringo</i> (Siebold) Siebold ex de Vriese		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い山地の林縁や湿地に生育する落葉小高木。高さ6～10m、直径30～40cmになる。葉は互生。葉身3～8cm。幅2～4cm。長枝の葉は3～5つに切れ込むことが多い。先はとがり、基部は円形またはくさび形。ふちに鋸歯がある。短枝の先に散形花序を出し直径2～4cmの白色の花を4～8個つける。花期は5～6月。秋には赤色または黄色の実(キミズミ)を群生させる。分布域は、北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国中南部。

■生育地及び生育状況

大宮、阿毘縁、山上地区に多く生育する。やや湿った環境の谷間に多い。高木が侵入すると被圧されるおそれがある。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



大宮(2010.5.17)／撮影: 矢田貝 繁明



山上(2014.5.11)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



大宮(2015.10.17)／撮影: 矢田貝 繁明

コゴメウツギ	バラ科	スグリウツギ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Stephanandra incisa</i> (Thunb.) Zabel		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の林縁や草地に生育する落葉低木。高さ1～2m。葉は互生。葉は三角状広卵形。葉の形は変異が多く、浅裂または中裂する。先端は尾状に広がり、基部は切形またはハート形。ふちには重鋸歯がある。円錐状または散房状の花序に直径4～5mmの白い花をつける。花期は5～6月。分布域は、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、台湾。

■生育地及び生育状況

多里地区の道端や崖地に生育している。多里地区内で数カ所の自生地が確認されているが、どの自生地も10本以下と個体数は少ない。自生地は他の植生が侵入しないような環境にあり直ちに消滅する可能性は少ない。

■保護上の留意点

草刈りなどの時に刈らないようにすること。

■特記事項



多里(2009.5.29)／撮影:藤原 文子



大山(2008.4.25)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



(2011.6.12)／撮影:藤原 文子

ミツモトソウ	バラ科	キジムシロ属	鳥取県	準絶滅危惧(NC)
学名	<i>Potentilla cryptotaeniae</i> Maxim.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

渓谷沿いの山地林縁や林床に生育する多年生草本。高さ50～80cm。葉は3小葉からなり、小葉は狭卵形で長さ3～5cm、鋸歯がある。花は黄色、直径1.5cmほどで、枝先に多数つく。花期は7～9月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

福栄地区や多里地区の源流部の道端などに自生するが個体数は少ない。福栄地区の若杉川沿いには100本以上の個体数が見られる。多里地区の生育個体数は10本以下である。日野川源流部の自生地は絶滅した可能性もある。若松鉱山跡地への林道途中に発電装置が設置された場所の自生は確認できていない。踏みつけによる絶滅の可能性もある。

■保護上の留意点

草刈り作業の時期や場所等に注意が必要である。

■特記事項



若杉(2016.9.16)／撮影: 日南町



若杉(2013.8.9)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



若杉(2016.9.16)／撮影: 日南町

キビナワシロイチゴ	バラ科	キイチゴ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Rubus yoshinoi</i> Koidz.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の林縁や道端に生育する落葉低木。枝はつる状に伸びてはいまわり、草本のように見える。葉は互生で、奇数羽状複葉。小葉は1対。小葉は菱形状卵形で、先端は急にとがり、ふちには鋸歯がある。枝先に紅紫色の花が数個ずつ集って上向きに咲く。花期は5～6月。果実は集合果。7～8月に赤く熟す。

■生育地及び生育状況

鳥取県では日南町のみで自生する。多里から山上地区にかけて自生地がある。各自生地ともに個体数は5株程度と少ないないが、生育環境は良好である。

■保護上の留意点

道路沿いの自生地では草刈り時に薊られていることがある。

■特記事項



多里(2016.6.2)／撮影：日南町



多里(2016.6.2)／撮影：日南町



日南町内の分布



(2016.7.9)／撮影：藤原 文子

クロイチゴ	バラ科	キイチゴ属	鳥取県	
学名	<i>Rubus mesogaeus</i>		環境省	
			その他重要種	○

■特徴

低山～山地の日当たりのよい林内や林縁に生育する落葉低木。茎は伸長し、鉤刺を疎性する。茎、枝、花序、葉柄には細毛を密生する。葉は花の枝では3小葉。徒長枝では3-5小葉。頂小葉は側小葉より大きく、卵円形。長さ6-12cm、幅4-8cm。急鋭尖頭で基部は円形ないし切形、縁には鋸歯がある。裏面は毛におおわれて灰白色、側小葉は斜倒卵形。葉柄は長さ6-7cm。花は腋性または頂生の球状花序をつくり、花柄と小花柄は短くて細毛がある。花は淡紅色。花期は6～7月。果実は8月頃に紅色から紫黒色に熟す。分布域は北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

・豊栄地区の林道脇に1個体自生している。

■保護上の留意点

林道作業の時に刈られることがある。刈り取らないようにすることが重要である。

■特記事項



(2015.7.4)／撮影:藤原 文子



若杉(2013.7.15)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



若杉(2013.8.9)／撮影:矢田貝 繁明

ミヤマニガイチゴ	バラ科	キイチゴ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Rubus subcrataegifolius</i> (H.Lév. et Vaniot) H.Lév.		その他重要種	

■特徴

高標高地の山地林縁などに生育する落葉低木。高さ50～100cm。葉は互生。葉は広卵形で3裂することが多い。葉のふちにはふぞろいな鋸歯がある。両面とも無毛。直径2～2.5cmの白い花が上向きに咲く。花期は4～5月。果実は直径1cmの球形の集合果。6～7月に熟す。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

日野川源流域に群生地がある。個体数は多く、生育の維持に問題はない。近年間伐が行われ日照条件も良くなった。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



(2008.6.8)／撮影：藤原 文子



多里(2015.6.7)／撮影：矢田貝 繁明



日南町内の分布



日野川源流(2014.9.28)／撮影：矢田貝 繁明

イワガサ	バラ科	シモツケ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	—
学名	<i>Spiraea blumei</i> G.Don		その他重要種	

■特徴

山地や海岸の岩場に生育する落葉低木。高さ1～1.5m。葉は互生。葉身は2～4cmで、上半分に鋸歯がある。質は厚くて無毛。白い花を咲かせる。花期は5月。県内での自生地が少なく特定希少種となっている。分布域は、本州(近畿地方以西)、四国、九州、朝鮮半島、中国。

■生育地及び生育状況

県内での生育地が若桜町内と三徳山の岩場に限られていたが、日南町では、2016年5月に多里地区で初めて生育が確認された。生育地は、崖地で被圧等のおそれはないが個体数は数本である。

■保護上の留意点

現状の生育環境を維持すること。

■特記事項

鳥取県指定特定希少野生動植物



多里(2016.5.3)／撮影: 矢田貝 繁明



多里(2016.5.5)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



多里(2016.5.5)／撮影: 矢田貝 繁明

ホナガクマヤナギ	クロウメモドキ科	クマヤナギ属	鳥取県	
学名	<i>Berchemia longiracemosa</i> Okuyama		環境省	
			その他重要種	○

■特徴

直立する高さ2-3mの落葉低木。枝は向上し、若い枝は無毛。葉は薄く、卵形または楕円形で、長さ4-10cm、幅3-6cm、鈍円頭、基部は円く、全縁で、側脈は7-11対、裏面はわずかに黄褐色の毛がある。葉柄は長さ8-16mm。花序は頂生の総状で、長さ5-10cm、密に花がつき、まれに下部で分枝し、分枝は上に向かう。花は小さく黄褐色。花期は6~8月。

■生育地及び生育状況

■保護上の留意点

■特記事項



山上(2016.5.27)／撮影: 矢田貝 繁明



山上(2016.6.5)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布

ヨコグラノキ	クロウメモドキ科	ヨコグラノキ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Berchemiella berchemiifolia</i> (Makino) Nakai		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の溪谷や崖地に孤立的に生育する落葉中高木。高さ10m。葉は互生。葉身は長さ6～13cm、幅3～5cm、長楕円形、上面は光沢があり、下面は帯粉白色で、全縁。葉の先は鋭くとがり、基部は左右不對照。2枚ずつ交互に互生する。花序は小さな集散花序で、先端近くの枝の葉腋に出る。花は黄色で直径3mm程度。花期は6月。分布域は、本州(宮城県、新潟県以南)、四国、九州。

■生育地及び生育状況

木谷地区から滑地区の林道沿いに生育している。個体数は10本以上あり、成木もあるので保全上の問題はない。

■保護上の留意点

元々個体数が少ない種であるので、造林地の拡大などに注意である。

■特記事項



(2015.5.15)／撮影:藤原 文子



多里(2010.8.19)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



多里(2016.9.5)／撮影:日南町

カワラハンノキ	カバノキ科	ハンノキ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Alnus serrulatoides</i> Callier		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

暖地の河岸などに生育する落葉小高木。高さ5～7m。葉は互生。葉身5～10cm、幅3～7cm。葉は先端が、へこむもの、丸いもの、とがるものと変化がある。雌雄同株。早春葉が展開する前に茶褐色の地味な花を咲かせる。花期は2～3月。分布域は、本州(東海・近畿地方以西)、四国、九州(宮崎県)。日本固有種。

■生育地及び生育状況

県内では日野川流域のみ分布している。特に印賀川流域は個体数が多い。各自生地ともに生育環境は良好で、更新も順調に行われている。

■保護上の留意点

河川工事の時に伐採しないようにすること。

■特記事項



印賀川(2009.2.19)／撮影:矢田貝 繁明



印賀川(2008.8.14)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



自生地(2016.4.12)／撮影:矢田貝 繁明

ハシバミ	カバノキ科	ハシバミ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	—
学名	<i>Corylus heterophylla</i> Fisch. ex Besser var. <i>thunbergii</i> Blume		その他重要種	

■特徴

日当たりのよいところに生える落葉低木。高さ1～2m。葉は互生。葉は、広卵形で、先は急に鋭くとがり、基部はハート型で、ふちにはふぞろいな重鋸歯がある。花は葉の展開前に開花する。雌雄同株。花期は3～4月。分布域は、北海道、本州、九州、朝鮮半島、中国。

■生育地及び生育状況

県内での生育地が限られていおり、現在知られている自生地は、米子市淀江町内と日南町印賀地区だけである。

印賀地区に数カ所自生地がある。生育個体数は20本程度で少なく、幼木が多い。

■保護上の留意点

草刈りによる刈り払いが多く、結実に至らない場合が多い。草刈の際には、刈らないようにすることが重要である。

■特記事項



大宮(2008.8.5)／撮影: 矢田貝 繁明



大宮(2016.8.23)／撮影: 日南町



日南町内の分布



鯉ヶ窪湿原(2014.10.4)／撮影: 藤原 文子

ウメバチソウ	ニシキギ科	ウメバチソウ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Parnassia palustris</i> L. var. <i>palustris</i>		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の日当たりの良いやや湿った草原や湿潤地に生育する小型の多年生草本。花径は10～40cm、茎頂に直径2～2.5cmの白色の花を上向きに1個咲かせる。花は梅の花によく似ている。花期は8～10月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

草原の減少で岩樋山山頂部や船通山山頂部以外では見られなくなった。岩樋山地区は、過去には多数見られたが草原の減少により現在では100個体以下に個体数が減少している。船通山山頂部は、登山者の踏みつけが多い。自生地は島根県に属する部分である。

■保護上の留意点

草原環境を維持すること。

■特記事項



日南町内の分布



道後山(2015.9.5)／撮影:藤原 文子



道後山(2015.9.3)／撮影:藤原 文子



江府町(2011.11.7)／撮影:藤原 文子

ナツウドイ	トウダイグサ科	トウダイグサ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Euphorbia sieboldiana</i> C.Morren et Decne.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

丘陵地からブナ帯域までの林縁や林下に生育する小型の多年生草本。高さ20～40cm。茎と葉はしばしば紅紫色を帯びる。葉は倒披針形～長楕円形でまばらに互生する。花期は4～5月。分布域は北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

自生地は町内に点在している。どこも個体数はわずかで、日野上地区は数個体と少ない。聖滝に至る道沿いには、20個体程度自生している。菅沢神社境内には10個体程度自生している。菅沢神社のように毎年維持管理されているところもある。(ナツウドイ保護のためではなく神社の管理)

■保護上の留意点

本種の種子の結実以降に、神社の草刈り作業を行えば、増殖が見込める。

■特記事項



日野上(2014.4.19)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



日野上(2008.5.8)／撮影: 藤原 文子

ケマルバスミレ	スミレ科	スミレ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Viola keiskei</i> Miq.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の向陽地から半日陰の落葉広葉樹林下などに生育する小型の多年生草本。特に崩れやすい斜面に多い。葉はやわらかく、円心形。花は大きくて白色。花期は4～5月。

■生育地及び生育状況

船通山登山道脇などに生育しているが10個体前後と個体数は少ない。生育環境は良好である。10年前の発見時より、生育範囲も広がり個体数も増えている。

■保護上の留意点

上層の植生に被圧されないようにすること。

■特記事項



多里(2014.5.3)／撮影:藤原 文子



多里(2014.5.3)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布

ダイセンキスミレ	スミレ科	スミレ属	鳥取県	その他の保護上重要な種(OT)
			環境省	—
学名	<i>Viola brevistipulata</i> (Franch. et Sav.) W.Becker subsp. <i>minor</i> (Nakai) F.Maek. et T.Hashim.		その他重要種	

■特徴

山地の風衝草原や砂礫地に生育する小型の多年生草本。茎は高さ約5cmで赤紫色を帯びる。根出葉は円心形で先は鋭くとがる。花は黄色。花期は5月。

■生育地及び生育状況

岩樋山から道後山にかけて多く生育している。山頂付近の草丈の低い草原に自生している。大倉山山頂でも僅か数個体の生育を過去に確認したが、現在は生育状況は確認できていない。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



道後山(2008.5.3)／撮影: 藤原 文子



道後山(2008.5.3)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



岩樋山(2015.4.23)／撮影: 矢田貝 繁明

ヒゴスミレ	スミレ科	スミレ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Viola chaerophylloides</i> (Regel) W.Becker var. <i>sieboldiana</i> (Maxim.) Makino		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い草原や乾燥気味の落葉広葉樹林内に生育する小型の多年生草本。葉は基部から5深裂している。花は白色。花期は4～5月。花期の高さは5～10cm。花の後に10cmほどになる。分布域は、本州(秋田県以南)、四国、九州。

■生育地及び生育状況

町内では山上地区に自生地があるが、生育個体は2個体のみである。また、自生地は、スギ人工林内にあり、日当たりが悪いため花が咲かない状態である。ヒゴスミレの生育環境としては日当たりが悪い。

■保護上の留意点

日照を確保すること。

■特記事項



山上(2016.4.15)／撮影: 矢田貝 繁明



(2008.4.8)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布

ヒナスミレ	スミレ科	スミレ属	鳥取県	
			環境省	
学名	<i>Viola tokubuchiana</i> Makino var. <i>takedana</i> (Makino) F.Maek.		その他重要種	○

■特徴

主に太平洋側に多く生育しているスミレで、西日本での生育地は少ない。落葉広葉樹林内や林縁に生育する。葉は地面に沿うように水平に広がる。花は淡紅紫色。花期の草丈は3~8cm。花期は4-5月。分布域は、北海道(南部)、本州、四国、九州(中部以北)。

■生育地及び生育状況

多里地区の林道沿いなどに40個体以上自生しているが、開花個体は少ない。樹木が大きくなり、日当たりが悪くなれば減少する可能性もある。船通山登山口で2個体を確認している。

■保護上の留意点

日照を改善すること。

■特記事項



江府町(2013.4.22)／撮影: 矢田貝 繁明



多里(2014.4.19)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



江府町(2013.4.22)／撮影: 矢田貝 繁明

トモエソウ	オトギリソウ科	オトギリソウ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Hypericum ascyron</i> L. var. <i>ascyron</i>		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い山間の水湿地やその周辺に生育する大型の夏緑性多年生草本。全草無毛。茎は4稜形で、高さ1m。葉は対生し、披針形で長さ4～10cm。花は黄色で、茎の先端に分枝してつく。花期は7～8月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

福栄、多里地区などのやや湿った場所に単独的に自生している。福栄地区のサクラソウ自生地は維持管理されており、生育環境は良好である。どの自生地も単独、或いは多くても10本以下である。

■保護上の留意点

湿地環境を保全すること。

■特記事項



大宮(2011.8.10)／撮影: 矢田貝 繁明



(2007.8.4)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



多里(2007.7.21)／撮影: 矢田貝 繁明

イヨフウロ(シコクフウロ) フウロソウ科		フウロソウ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名 <i>Geranium shikokianum</i> Matsum.			環境省	—
			その他重要種	

■特徴

ブナ帯上部の山地草原に生育する多年生草本。高さ30～70cm。葉は幅5～10cmで掌状に5個に裂け、両面に毛がある。花は淡紅色。花期は7月～9月。分布域は、本州(東海地方以西)、四国、九州。

■生育地及び生育状況

岩樋山から道後山にかけてのかつての両国牧場内に生育している。大倉山の山頂付近にもわずかに生育している。岩樋山地域は、100個体以上と個体数が多く生育も良好である。一方で大倉山山頂は、10個体以下と個体数が少なく草に覆われている。

■保護上の留意点

かつての放牧地が林地化してきている。草原環境を維持すること。

■特記事項



岩樋山(2013.7.11)／撮影: 矢田貝 繁明



(2015.9.13)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



大山(2011.9.27)／撮影: 藤原 文子

ビッチュウフウロ	フウロソウ科	フウロソウ属	鳥取県	
学名	<i>Geranium yoshinoi Makino ex Nakai</i>		環境省	
			その他重要種	○

■特徴

湿原などに生育する多年生草本。葉は大きく5裂する。花は淡紅紫色で、花弁内の赤筋が明瞭である。花期は8～9月。多産するゲンノショウコより大きく、イヨフウロより小さい。

■生育地及び生育状況

鳥取県では日南町のみで自生する。現在の生育個体数はわずか1個体である。県境を越えた広島県側には多産しているが、この個体は鳥取県側で初めて確認された唯一の個体である。

■保護上の留意点

国道の草刈りで刈られているので保全が必要

■特記事項

次回改訂時絶滅危惧種となる可能性が高い。



鍵掛峠(2016.9.5)／撮影：日南町



鍵掛峠(2016.9.15)／撮影：矢田貝 繁明



日南町内の分布



鍵掛峠(2016.6.8)／撮影：矢田貝 繁明

メグスリノキ	ムクロジ科	カエデ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Acer maximowiczianum</i> Miq.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の自然が残っている落葉広葉樹に混じって自生し、崖地や溪流沿いなどに稀に生育する落葉高木。雌雄異株。高さ10～15m、直径30～40cmになる。葉は対生。3出複葉。葉のふちには不規則な波状の鋸歯がある。葉は鮮やかに紅葉する。葉の展開とほぼ同時に淡黄色の花をつける。花期は5月。分布域は、本州(宮城県、山形県以南)、四国、九州。近畿以西では生育数が少ない。

■生育地及び生育状況

県内の自生地も少なく点在している。日南町内でも確認されているのは数本である。自生地は、手の入っていない日野川や木谷川、小原川の溪岸で、個体数も各所1本ずつである。

■保護上の留意点

- ・伐採を防止すること。
- ・自然護岸を維持すること。

■特記事項



多里(2015.5.26)／撮影: 矢田貝 繁明



多里(2008.5.3)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



(2016.9.5)／撮影: 日南町

カラスシキミ	ジンチョウゲ科	ジンチョウゲ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Daphne miyabeana</i> Makino		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

やや山地の林内に生育する常緑小低木。葉は互生。葉の先はとがり、基部は長いくさび形で、ふちは全縁。表面は光沢があり、葉脈はへこむ。両面とも無毛。雌雄別株。新枝の先端に白色の花を数個頭状につける。花期は4～5月。果実は7～8月に赤熟する。分布域は、北海道、本州(鳥取県以北の日本海側)。日本固有種

■生育地及び生育状況

大山地域には多いが、大山以外では生育個体が少ない。日南町内では福寿実地区の森林内に自生を確認しているが、いずれも幼木である。

■保護上の留意点

林業作業(作業道敷設など)時に伐採しないこと。

■特記事項



(2011.5.27)／撮影: 藤原 文子



(2014.7.6)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



山上(2010.4.29)／撮影: 矢田貝 繁明

オオヤマフスマ	ナデシコ科	ノミノツヅリ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Moehringia lateriflora</i> (L.) Fenzl		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の草原や道端などに生育する小型の多年生草本。高さ5～20cm。茎は有毛で細く、上部で分枝する。葉は対生し、長楕円形で長さ1～2cm、3脈が目立ち、両面に毛がある。花は白色の5弁花で直径約1cm。花期は6～8月。日南町では、5月頃に開花する。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

岩樋山の山頂部には群生地や少数の点在地があり、草原の維持が重要。その他に河上地区の国道沿いに自生地があるが、10個体程度と個体数が少ない。

■保護上の留意点

草原環境を維持すること。

■特記事項



(2016.6.2)／撮影:藤原 文子



(2009.6.12)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



日野上(2016.6.2)／撮影:日南町

バイカウツギ	アジサイ科	バイカウツギ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Philadelphus satsumi Siebold ex Lindl. et Paxton</i>		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地に生育する落葉低木。高さ1～3m。葉は対生で、卵形～長楕円状卵形。先は鋭くとがり、基部は円形。ふちには浅い鋸歯がまばらにある。質は洋紙質で硬く、表面には微毛が散生する。花は白色で、枝先の散房花序を出に5～9個つける。花期は6～7月。ウツギににているが、花弁が梅の花に似ているので、バイカウツギと呼ばれる。分布域は、本州、四国、九州。日本固有種。

■生育地及び生育状況

河上地内、湯河地内に生育しているが、個体数は少ない。河上地区は国道や町道の法面に自生し問題ない。その他日野川源流域などでは高木による被圧が懸念される。湯河地区では、県道横に1本だけ生育を確認している。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



多里(2016.5.28)／撮影: 日南町



多里(2016.6.2)／撮影: 日南町



日南町内の分布



多里(2016.6.8)／撮影: 矢田貝 繁明

ギンレイカ	サクラソウ科	オカトラノオ属	鳥取県	
学名	<i>Lysimachia acroadenia</i> Maxim.		環境省	
			その他重要種	○

■特徴

山地のやや湿った林縁や堆砂敷きなどに生育する多年生草本。高さ30～60cm。葉は長楕円形、長さ5～10cm。枝先に長さ5mm程度の白い小さな花が総状につく。花期は6～7月。絶滅危惧種ではないが生育が稀な植物である。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

福栄地区で生育を確認したが、現在では生育が確認できない。生育状況は不明である。

■保護上の留意点

生育状況を確認すること。

■特記事項



若杉(2015.6.15)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



日野町(2015.6.15)／撮影: 矢田貝 繁明

サクラソウ	サクラソウ科	サクラソウ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧 I 類(CR-EN) 準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Primula sieboldii</i> E.Morren		その他重要種	

■特徴

湿潤な草地や落葉広葉樹林下に生育する多年生草本。葉は根元に集まってつき、長さ4～10cm、幅3～6cmの楕円形でしわが多く、ふちは浅く切れ込む。葉の中心から高さ15～40cmの花茎を伸ばし、先端に紅紫色または白色の花を散形状に数個つける。花期は4～5月。分布域は、北海道、本州、九州。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では日野郡内だけに生育している。各地域で保護活動が行われている。福栄地区の自生地では、100株以上が生育している。また、維持管理がされており、生育環境は良好である。一方で、印賀地区では40株近く生育しているが、周辺の造林木により被圧されつつある。

■保護上の留意点

他の植物に被圧されないようにし、日照を確保すること。

■特記事項

鳥取県指定特定希少野生動植物



福栄(2016.4.26)／撮影: 日南町



福栄(2016.5.3)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



福栄(2014.5.15)／撮影: 矢田貝 繁明

シラタマノキ	ツツジ科	シラタマノキ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Gaultheria miqueliana</i> Takeda		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

高地の日当たりの良い風衝地に群生する常緑低木。高さ5～20cm。葉は互生。葉には鋸歯がある。枝先や葉腋に下向きに2～6個の花をつける。花は白色で壺形。花期は6～7月。分布域は、北海道、本州(中部以北)。

■生育地及び生育状況

県内での自生地は大山と岩樋山から道後山周辺だけである。岩樋山周辺に多く生育している。この自生地は、分布西限に近く貴重な生育地である。個体数は100個体以上とやや多く生育環境も良好である。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



岩樋山(2009.6.18)／撮影:藤原 文子



道後山(2014.9.28)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



岩樋山(2008.7.5)／撮影:矢田貝 繁明

ギンリョウソウモドキ	ツツジ科	ギンリョウソウモドキ属	鳥取県	情報不足(DD)
学名	<i>Monotropa uniflora</i> L.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

別名アキノギンリョウソウとも呼ばれる。葉緑素を持たない腐生(菌従属栄養)植物。山地林内に点在して発生する。高さ10~30cm。茎頂に花を1個つける。花期は8~9月。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

多里地区で数カ所で自生を確認しているが、各地域共に数本程度と生育本数が少ない。また、一定の地区に長らく発生することがないため自生地の管理は難しい。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



多里(2014.9.23)／撮影: 矢田貝 繁明



多里(2015.8.28)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



大山(2011.11.10)／撮影: 藤原 文子

マルバノイチヤクソウ	ツツジ科	イチヤクソウ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU) —
学名	<i>Pyrola nephrophylla</i> (Andres) Andres		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い山地の林床や灌木の間などに生育する小型の多年生草本。高さ15～20cmのやや赤みのある花茎の先に5～10個の花をつける。花はやや赤みがある白色。花期は6～8月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

岩樋山から道後山にかけての登山道脇などに生育している。登山道脇に30個体近く自生している。

■保護上の留意点

盗採を防止すること。

■特記事項



岩樋山(2014.7.15)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



岩樋山(2016.6.8)／撮影:矢田貝 繁明

キシツツジ	ツツジ科	ツツジ属	鳥取県	その他の保護上重要な種(OT)
			環境省	—
学名	<i>Rhododendron ripense Makino</i>		その他重要種	

■特徴

鳥取県内では日野川流域だけに生育している低木。主に河岸の岩の割れ目などに自生している。常緑低木で、高さ1～1.5m。葉は互生で、枝先に集まってつく。葉の展開と同時に枝先に淡紅紫色の花を1～3個つける。花期は4～5月。分布域は、本州(中国地方)、四国、九州(北部)。

■生育地及び生育状況

日野川の自然溪岸に生育している。

■保護上の留意点

自然河川を維持すること。

■特記事項



(2014.5.3)／撮影:藤原 文子



(2014.5.3)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



(2014.5.3)／撮影:藤原 文子

ゲンカイツツジ	ツツジ科	ツツジ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Rhododendron mucronulatum Turcz. var. ciliatum Nakai</i>		その他重要種	

■特徴

常緑低木。花崗岩の露岩上に生育していることが多い。高さ1.5～2m。葉は互生で枝先に集ってつく。葉身は長さ2.5～8cm、幅1.2～3cmの楕円形。質は厚く、両面に毛がある。花は紅紫色～淡紅紫色で、葉の展開前につく。花期は3～4月。分布域は、本州(岡山県以西)、四国(北部)、九州(北部)、対馬、朝鮮半島。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では日野町と日南町の花崗岩地帯だけに生育している。日野川沿いの日野町境から生山駅までの露岩地に多い。生育本数は多く、露岩上に生育しているため、被圧のおそれもない。生育環境を現状維持できれば、保全上の問題はない。

■保護上の留意点

- ・自然護岸を維持すること。
- ・園芸用の採取を防止すること。

■特記事項



日野町(2008.4.9)／撮影:藤原 文子



日野町(2015.4.12)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



日野町(2009.4.7)／撮影:矢田貝 繁明

キヌタソウ	アカネ科	ヤエムグラ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Galium kinuta Nakai et H.Hara</i>		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の林縁や林下に生育する多年生草本。直立して高さ30～60cm。葉は4個輪生し、葉柄はない。葉の先は尾状に細くとがり、3個の葉脈が目立つ。茎の上部に円錐状の集散花序をつくり、まばらに多数の白色の花をつける。花期は7～9月。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

町内には数カ所の生育地がある。山上、大宮、阿毘縁地区に自生地があり、各地区ともに現在の生育環境は良好である。阿毘縁地区には約100本、山上地区には数百本の群落があるが、他の地域は10～20本前後とあまり多くない。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



大宮(2013.7.17)／撮影: 矢田貝 繁明



阿毘縁(2010.7.27)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



阿毘縁(2010.7.27)／撮影: 藤原 文子

オオキヌタソウ	アカネ科	アカネ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Rubia chinensis</i> Regel et Maack f. <i>mitis</i> (Miq.) Kitag.		その他重要種	

■特徴

山地の林縁や樹林下に生育する多年生草本。高さ30～60cm。葉は4個輪生する。花は緑白色で直径3～4mm。花期は5～7月。葉柄の有無でキヌタソウと区別できる。オオキヌタソウには葉柄があるが、キヌタソウには葉柄がない。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

多里地区に自生地があるが、10個体前後と個体数が少ない。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



多里(2009.6.11)／撮影:藤原 文子



多里(2009.6.11)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



多里(2009.6.11)／撮影:藤原 文子

ツクシガシワ	キョウチクトウ科	カモメヅル属	鳥取県	
			環境省	
学名	<i>Vincetoxicum macrophyllum Siebold et Zucc.</i>		その他重要種	○

■特徴

中国地方以西の落葉広葉樹林内のやや湿った林床に自生する多年生草本。茎は高さ50-100cm、無毛またはやや微毛があって、先はつる状に伸びる。中央部のすこし下方に数対の卵円形または広楕円形の大きい葉をつける。葉は薄膜質でわずかに毛があり、長さ12-15cm、幅7-15cm、先は鋭くとがり、基部は円形またはやや楔形、3-6mmの葉柄がある。上部の葉は急に小さくなり、葉腋に花序をつける。総花柄は2-5cm、小花柄は1-2cm。萼裂片は披針形で先は鋭くとがる。花冠は暗紫色で径8-10mm、裂片は内面に白毛があり、披針形で鈍形。花期は7-8月。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では日南町のみで自生する。船通山登山道の脇に10個体程度自生している。

■保護上の留意点

- ・登山道の草刈をするときに刈らないようにすること。
- ・生育地の湿原を維持すること。

■特記事項



多里(2015.6.9)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



多里(2015.6.9)／撮影: 矢田貝 繁明

マルバノサウトウガラシ	オオバコ科	サウトウガラシ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Deinostema adenocaulum</i> (Maxim.) T.Yamaz.		環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			その他重要種	

■特徴

山間の水湿地や水田に生育する小型の1年生草本。高さ5～10cm。葉は卵円形、無柄、長さ5mm。花は淡紫色。花期は8～9月。稲刈り後の水田で葉が赤くなっていることが多く見つけやすい。分布域は、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

菅沢地区の水田に生育しているが、個体数は10個体未満で少ない。稲刈り後の水田に出現するので、稲刈り後の耕耘などを行うと、発芽しない。

■保護上の留意点

水田の作付けと稲刈り後に耕耘をしないこと。

■特記事項



(2007.10.16)／撮影: 藤原 文子



(2007.10.15)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



大宮(2008.9.30)／撮影: 矢田貝 繁明

キセワタ	シソ科	メハジキ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Leonurus macranthus Maxim.</i>		その他重要種	

■特徴

山地の草原に生育する多年生草本。高さ0.6～1m。葉は洋紙質で粗い毛がある。上部の葉腋に淡紅紫色の唇形花を数個ずつつく。花期は8～9月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では、日南町と船上山の草原だけに生育している。福万来地区の自生地では4～5株であるが、地域住民などにより保護管理が行われているため、生育環境は良好である。直近10年の間に、個体数が増えてきている。2015年には10数個体の生育を確認している。

■保護上の留意点

地元の人々が生育地と重要性を認識しており、草刈りで刈り払わないよう努めている。

■特記事項



山上(2016.8.11)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



山上(2014.8.23)／撮影:藤原 文子

ヒメナミキ	シソ科	タツナミソウ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Scutellaria dependens Maxim.</i>		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

湿地性の草原内に生育する小型の多年生草本。高さ10～40cm。葉は対生し、長さ1～2cm、幅0.6～1cmの狭卵状三角形。上部の葉腋にわずかに淡紫色を帯びた小さな唇形花を1個ずつつける。花期は6～8月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

印賀地区の溜め池周辺や治山ダムの堆砂敷きなどで見られる。印賀地区の自生地は、生育個体数(20本前後)も少なく、雑草に被圧されがちである。呼子地区の自生地は、個体数も多く(100本以上)生育状況は良好である。

■保護上の留意点

生育地の湿地の環境を維持すること。

■特記事項



大宮(2016.7.5)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



大宮(2016.7.5)／撮影: 矢田貝 繁明

カリガネソウ	シソ科	カリガネソウ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Caryopteris divaricata Maxim.</i>		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の林縁や樹林下に生育する多年生草本で、強い臭気がある。高さは1m程度。葉は対生で、鋸歯があり、先は鋭くとがり、基部は円形。葉腋から長い柄をもつ集散花序を出し、青紫色の花をまばらにつける。雄しべ、花柱が花の外につき出る。花期は8～9月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

船通山登山口周辺や若杉地区に生育している。船通山登山道周辺では10個体前後、若杉地区では10個体未満の生育個体を確認している。若杉地区では、個体数が減少している。

■保護上の留意点

道端の草刈り作業実施時に、刈らないようにすること。

■特記事項



多里(2016.9.3)／撮影: 日南町



若杉(2012.8.14)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



若杉(2016.7.4)／撮影: 日南町

キュウシュウコゴメグサ	ハマウツボ科	コゴメグサ属	鳥取県	その他の保護上重要な種(OT)
			環境省	—
学名	<i>Euphrasia insignis</i> Wettst. subsp. <i>iinumae</i> (Takeda) T.Yamaz. var. <i>kiusiana</i> (Y.Kimura) T.Yamaz.		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い高山の砂礫地や草原に生育する小型の1年生草本。高さ10～20cm。葉は対生で、倒卵形～菱形状円形。花は白色の唇形。花期は7-9月。地域ごとに少しずつ形態が異なる。分布域は、本州(近畿北部、中国地方)、九州(北西部)。

■生育地及び生育状況

大山地域には多い。日南町では道後山山頂付近の県境にわずかに自生している。生育個体数は数個体である。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



道後山(2016.8.8)／撮影: 矢田貝 繁明



道後山(2007.8.4)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布

イヌタヌキモ	タヌキモ科	タヌキモ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Utricularia australis</i> R.Br.		その他重要種	

■特徴

水中に浮遊する小型の多年生草本。水中の微生物等を捕食する食虫植物である。水面上に花茎を伸ばし黄色の花を咲かせる。花期は7～9月。分布域は、北海道、本州、四国、九州、沖縄。

■生育地及び生育状況

印賀地区と福塚地区の溜め池に生育している。両地区共に個体数は数十個体で、印賀地区ではアシが、福塚地区ではヒシが繁茂してきている。

■保護上の留意点

水中に生育する植物なので、生育環境の陸地化を防止すること。

■特記事項



大宮(2010.9.16)／撮影:矢田貝 繁明



大宮(2008.7.19)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布

ムラサキミカキグサ	タヌキモ科	タヌキモ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			環境省	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Utricularia uliginosa</i> Vahl		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い貧栄養の山地湿原に生育する小型の多年生草本。食虫植物で、地下茎にまばらに捕虫囊をつける。土壤中の微生物などを捕食する。葉は長さ3～6mmの細いへら形。花茎は高さ5～15cm。上部に直径3～4mmの淡紫色の花を1～4個つける。花期は8～9月。分布域は本州、四国、九州、沖縄。

■生育地及び生育状況

印賀地区の湿原に自生している。湿地の地面が直接見える場所に自生し、数十本以上の群落を形成する。細少な植物であり、環境の変化に弱い。

■保護上の留意点

生育地の湿原の環境を維持すること。

■特記事項



大宮(2016.7.30)／撮影: 矢田貝 繁明



大宮(2013.8.18)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



大宮(2008.8.14)／撮影: 矢田貝 繁明

ミヤマウメドキ	モチノキ科	モチノキ属	鳥取県	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
学名	<i>Ilex nipponica</i> Makino		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山地の湿原に生育する落葉小高木。高さ2～3m。葉は互生。葉身は長さ3～10cm、幅1.5～5cm。葉は倒披針形、基部はくさび形で、ふちには鋭い鋸歯がある。当年枝の葉腋に白色の花が数個集まって咲く。花期は6月。分布域は、東北、中部～近畿地方の日本海側。

■生育地及び生育状況

日南地区ではわずかに生育を確認しているが、作業道開設の犠牲になったこともある。印賀地区で1個体と佐木谷地区で1個体確認していた。印賀地区では伐採された。佐木谷地区の個体も上層の樹木に被圧されている。

■保護上の留意点

伐採を防止すること。

■特記事項



大宮(2008.7.1)／撮影: 矢田貝 繁明



大宮(2013.8.19)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



大宮(2010.5.31)／撮影: 矢田貝 繁明

フクシマシャジン	キキョウ科	ツリガネニンジン属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
			環境省	—
学名	<i>Adenophora divaricata</i> Franch. et Sav. var. <i>manshurica</i> Kitag.		その他重要種	

■特徴

山地のやや乾いた林地に生育する多年生草本。本種によく似たツリガネニンジンが多産するが、フクシマシャジンは少ない。茎は高さ0.6~1mになる。葉はふつつ輪生、ときに対生、または互生し、長さ5~8cmの卵状楕円形。茎頂に円錐花序を出し、淡紫色~白色の鐘形の花をつける。花期は8~9月。分布域は、本州(中部地方以北)。

■生育地及び生育状況

印賀地区に数本の自生があるが、絶滅の可能性が高い。現在の生育本数はわずか2本である。自生地は道路横で、草刈りの際に刈飛ばされていることがある。10年前の発見時より個体数が減少している。

■保護上の留意点

道路の草刈時に、刈飛ばさないように注意すること。

■特記事項



(2008.8.18)／撮影:藤原 文子



(2011.8.22)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



大宮(2015.8.4)／撮影:矢田貝 繁明

シデシヤジン	キキョウ科	シデシヤジン属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
			環境省	—
学名	<i>Asyneuma japonicum</i> (Miq.) Briq.		その他重要種	

■特徴

山地の明るい林縁などに生育する多年生草本。高さ0.5～1m。葉は互生し、上部の葉は小葉で無柄。下部の葉は短い柄があり、卵形または長楕円形で長さ5～12cm、先はとがり不揃いな鋸歯がある。花は紫色で茎頂と上部の葉脇から伸びた総状花序につく。花弁は反り返る。花期は6～8月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では日南町内のみで自生する。三栄地区と萩原地区に自生地があるが、両地区ともに雑草の繁茂が著しく、本種は被圧されている。三栄地区は数個体、萩原地区は10個体前後が生育している。

■保護上の留意点

他の植物に被圧されないようにすること。

■特記事項



日野上(2016.7.4)／撮影:日南町



日野上(2016.7.4)／撮影:日南町



日南町内の分布



日野上(2008.7.30)／撮影:藤原文子

サンベサワアザミ	キク科	アザミ属	鳥取県	絶滅危惧 I 類(CR-EN)
学名	<i>Cirsium tenuisquamatum</i> Kitam.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山間の湿潤地に生育する多年生草本。大型のアザミ。高さ50～100cm。根出葉は大型で狭楕円形。羽状中裂し、ふちは粗い鋸歯がある。花は、淡紅紫色で、茎頂に単生し直径約5cm。花にクモ毛が密生する。花期は10～11月。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では日野郡内だけに自生しており、日南町内の自生地は、県内最大である。自生地は三栄地区にあり、およそ20株前後が生育している。自生地周辺はやや湿り気があるため、ミゾソバなどの雑草に覆われることが多い。

■保護上の留意点

他の植物に被圧されないようにすること。

■特記事項



日野上(2015.9.15)／撮影: 日南町



日野上(2015.9.15)／撮影: 日南町



日南町内の分布



日野上(2016.9.24)／撮影: 矢田貝 繁明

ミヤコアザミ	キク科	トウヒレン属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Saussurea maximowiczii</i> Herder		その他重要種	

■特徴

山地の日当たりの良いやや湿った草地や湿原に生育するやや大型の多年生草本。高さ1~1.5m。上部で枝分かれする。根出葉は長柄があり、長楕円形で羽状に深裂し、大きなロゼットを形成し、秋まで残る。茎葉は小さく、上部の葉は全縁。散房状に淡紅紫色の頭花を上向きに多数つける。花期は9~10月。分布域は、本州(福島県以南)、四国。

■生育地及び生育状況

印賀地区の湿地に自生している。個体数は数本で、他の植物による被圧が心配される。

■保護上の留意点

切り花として採取されているのを見かける。盗採を防止すること。

■特記事項



福栄(2014.10.4)／撮影:藤原 文子



福栄(2008.6.16)／撮影:藤原 文子



日南町内の分布



印賀(2008.9.23)／撮影:矢田貝 繁明

ハンゴンソウ	キク科	ノボロギク属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Senecio cannabifolius</i> Less.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

北方系の植物で日当たりの良い深山の湿潤地などに生育する大型の多年生草本。高さ1～2m。葉は互生し、羽状に3～7深裂し、先端はとがり、基部は葉柄に続く。茎の先に散房花序に多数の頭花をつける。花は黄色。花期は7～9月。分布域は、北海道、本州(中部地方以北)。

■生育地及び生育状況

日南町内には、日野川源流部と船通山林道沿いに自生している。日野川源流部には、2群落(60本程度)ある。船通山林道沿いには1群落(80本程度)ある。いずれの生育地も生育環境は良好である。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



(2009.8.20)／撮影: 藤原 文子



(2014.9.14)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



茶屋(2014.7.30)／撮影: 矢田貝 繁明

クシバタンポポ	キク科	タンポポ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Taraxacum pectinatum</i> Kitam.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

山間部の道端などに生育する日本在来のタンポポ。全国的に生育地が限られている。葉は深く羽裂し、櫛の歯状になることが多い。花は黄色で、総苞外片は短く、内片に圧着するため、反り返らない。

■生育地及び生育状況

菅沢地区や上萩山地区で数個体の自生を確認している。他の植物に被圧されたり自然に消滅した生育地も多い。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



福栄(2016.5.3)／撮影: 矢田貝 繁明



日南町内の分布



多里(2014.5.3)／撮影: 藤原 文子

カンボク	レンプクソウ科	ガマズミ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
			環境省	—
学名	<i>Viburnum opulus L. var. sargentii (Koehne) Takeda</i>		その他重要種	

■特徴

山地の沢沿いや湿地環境に生育する落葉低木。葉は対生。広卵形で、中部まで3裂し、ふちの上部には粗い鋸歯がる。表面は無毛で、裏面は全面に毛がある。花は散房花序で、小さな両性花の周りに白い大きな装飾花がつく。両性花は淡黄色。花期は5～7月。分布域は、北海道、本州、千島、サハリン、朝鮮半島、中国。

■生育地及び生育状況

県内では、日南町の印賀地区から阿毘縁地区にかけての湿地に多く分布している。湿地の低木林に混じっていることが多く、高木が侵入すれば被圧されるおそれがある。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



大宮(2011.6.7)／撮影: 矢田貝 繁明



(2016.6.2)／撮影: 日南町



日南町内の分布



(2016.9.13)／撮影: 日南町

マツムシソウ	スイカズラ科	マツムシソウ属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Scabiosa japonica</i> Miq.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

日当たりの良い山地の草原に生育する越年生(2年生)草本。高さ60～90cm。根生葉はロゼット状で冬を越す。茎の下部、中部の葉は羽裂する。裂片は根生葉で幅広く、上部の葉で披針形になる。茎の先が延びて長柄になり、その先に淡紫色の頭花をつける。花期は8～10月。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

日南町内では、花見山や道後山に自生している。花見山山頂部の草原では、草原の林地化により絶滅した。花見山スキー場に多いが、園芸用に植栽したものである。

■保護上の留意点

山頂部の草原の環境を維持すること。

■特記事項



(2015.9.3)／撮影:藤原 文子



岩樋山(2008.8.27)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



花見山(植栽:人為分布)(2015.10.20)／撮影:矢田貝 繁明

ヨロイグサ	セリ科	シシウド属	鳥取県	情報不足(DD)
			環境省	—
学名	<i>Angelica dahurica</i> (Hoffm.) Benth. et Hook.f. ex Franch. et Sav.		その他重要種	

■特徴

日当たりの良い草地や河川敷に生育する大型の多年生草本。高さ1~3m。葉は2~3回3出羽状複葉。小葉はシシウドより細長く、数が多く、ふちはざらつく。花は白く散房花序。花期は7~8月。分布域は、本州(中国地方)、九州、北東アジア。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では日南町内の2カ所のみで自生する。印賀川流域には広範囲で100本以上生育している。また日野川源流域にも少数(10本前後)生育している。他の植物より高くなるので被圧の恐れは少ない。

■保護上の留意点

- ・生育環境を維持すること。
- ・アシなどの大型植物が繁茂しないようにすること。

■特記事項



大宮(2013.8.9)／撮影: 矢田貝 繁明



(2010.8.14)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布

ドクゼリ	セリ科	ドクゼリ属	鳥取県 環境省	絶滅危惧 I 類(CR-EN) —
学名	<i>Cicuta virosa</i> L.		その他重要種	

■特徴

沼や河川に生育する抽水性の大型多年生草本。根茎は太くて有毒。猛毒の植物として有名である。高さは1m程度。葉は1～3回3出羽状複葉。花は白色。花期は7～8月。分布域は、北海道、本州(中部以北)。

■生育地及び生育状況

鳥取県内では、日南町の1ヶ所のみで自生する。絶滅寸前の状態である。2016年現在、2個体程度残っているが、維持管理しなければ絶滅は時間の問題である。

■保護上の留意点

他の植物に被圧されないように、生育地の維持管理をすること。

■特記事項



大宮(2009.7.12)／撮影:藤原 文子



大宮(2015.8.4)／撮影:矢田貝 繁明



日南町内の分布



(2010.3.28)／撮影:藤原 文子

ムカゴニンジン	セリ科	ムカゴニンジン属	鳥取県	準絶滅危惧(NT)
学名	<i>Sium sisarum</i> L.		環境省	—
			その他重要種	

■特徴

日当たりの良い湿地や池沼に生育する多年生草本。茎の高さ0.3～1m。上部の葉は3出複葉、下部の葉は単羽状複葉。花期は8～11月。秋ごろに根元や葉腋にムカゴをつける。分布域は、北海道、本州、四国、九州。

■生育地及び生育状況

印賀地区の湿地に多く生育している。最近、個体数も増えており生育状況は良好である。2010年頃は10個体程度であったが、現在では50個体以上確認できる。

■保護上の留意点

生育環境を維持すること。

■特記事項



大宮(2013.9.5)／撮影: 矢田貝 繁明



(2010.7.9)／撮影: 藤原 文子



日南町内の分布



(2008.8.22)／撮影: 藤原 文子

和名検索

和名	項	和名	項
ア アギナシ	15	タ ダイセンキスミレ	70
アテツマンサク	53	タキミシダ	5
イ イチイ	7	タンナトリカブト	45
イヌタヌキモ	95	チ チャイロカワモズク	2
イヨフウロ(シコクフウロ)	74	ツ ツクシガシワ	89
イワガサ	62	ツルデンダ	6
イワヒバ	3	ト トキソウ	31
ウ ウスバサイシン	11	ドクゼリ	107
ウメバチソウ	67	トモエソウ	73
エ エビネ	19	ナ ナツウダイ	68
オ オオウラジロノキ	55	ノ ノハナショウブ	35
オオカワズスゲ	40	ハ バイカウツギ	79
オオキツネノカミソリ	36	バイカモ	50
オオキヌタソウ	88	バイケイソウ	17
オオヤマフスマ	78	ハシバミ	66
オキナグサ	49	ハンゴンソウ	102
オタルスゲ	41	ヒ ヒゴスミレ	71
オニシモツケ	54	ヒツジグサ	10
オニスゲ	42	ビッチュウフウロ	75
オニノヤガラ	25	ヒトツボクロ	33
カ カタクリ	18	ヒナスミレ	72
カラスシキミ	77	ヒメカンアオイ	12
カリガネソウ	93	ヒメザゼンソウ	14
カワラハンノキ	65	ヒメナミキ	92
カンボク	104	ヒメミクリ	38
キ キエビネ	20	ヒロハテンナンショウ	13
キシツツジ	85	ヒロハヘビノボラズ	44
キセワタ	91	フ フクシマシャジン	98
キヌタソウ	87	ヘ ベニバナヤマシャクヤク	51
キビナワシロイチゴ	59	ホ ホナガクマヤナギ	63
キュウシュウコゴメグサ	94	マ マツムシソウ	105
キンセイラン	21	マルバノイチヤクソウ	84
キンラン	22	マルバノサワトウガラシ	90
ギンリョウソウモドキ	83	ミ ミズオオバコ	16
ギンレイカ	80	ミズチドリ	30
ク クシバタンポポ	103	ミズトンボ	27
クモキリソウ	28	ミスミソウ	48
クロイチゴ	60	ミツモトソウ	58
ケ ケマルバスミレ	69	ミドリヨウラク	37
ゲンカイツツジ	86	ミヤコアザミ	101
コ コウホネ	9	ミヤマウズラ	26
コゴメウツギ	57	ミヤマウメモドキ	97
コマツカサスキ	43	ミヤマニガイチゴ	61
サ サギソウ	29	ム ムカゴニンジン	108
サクラソウ	81	ムラサキミミカキグサ	96
ササバギンラン	23	メ メグスリノキ	76
サンインシロカネソウ	47	ヤ ヤシャゼンマイ	4
サンベサワアザミ	100	ヤマシャクヤク	52
シ シデシヤジン	99	ヤマトキソウ	32
ジュンサイ	8	ヤマトミクリ	39
ショウキラン	34	ヨ ヨコグラノキ	64
シラタマノキ	82	ヨロイグサ	106
ス ズミ	56	リ リュウキンカ	46
セ セッコク	24		

作成
日南町

監修・解説
矢田貝 繁明 ・ 藤原 文子

写真
矢田貝 繁明 ・ 藤原 文子

参考文献

- ito,M.et al.2015.Green List ver.b2.3;ito,M.et al.2015.GymGlist ver.b2;Eblhara,A.et al.Ferms Green List ver.b2
邑田仁 監修. 2013. 維管束植物分類表. 初版. 株式会社北隆館, 東京
佐竹義輔・多井次三郎・北村四郎・亙理俊二・富成忠夫. 2006. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類. 第3刷. 株式会社平凡社, 東京
佐竹義輔・多井次三郎・北村四郎・亙理俊二・富成忠夫. 2006. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類. 第3刷. 株式会社平凡社, 東京
佐竹義輔・多井次三郎・北村四郎・亙理俊二・富成忠夫. 1997. 日本の野生植物 木本Ⅰ 合弁花類. 第8刷. 株式会社平凡社, 東京
鳥取県生物学会 編集. レッドデータブックとっとり(改訂版). 2012. 鳥取県生活環境部公園自然課, 鳥取
林弥栄 監修. 2009. 山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花. 21刷. 株式会社山と溪谷社, 東京
門田裕一 監修. 2013. 山溪ハンディ図鑑2 増補改訂新版 山に咲く花. 初版第1刷. 株式会社山と溪谷社, 東京
高橋秀男・勝山輝男 監修. 2010. 山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花. 第4版3刷. 株式会社山と溪谷社, 東京
高橋秀男・勝山輝男 監修. 2007. 山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花. 第2版6刷. 株式会社山と溪谷社, 東京
高橋秀男・勝山輝男 監修. 2010. 山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花. 改訂第3版5刷. 株式会社山と溪谷社, 東京
清水建美 監修. 2006. 山溪ハンディ図鑑8 高山に咲く花. 初版第3刷. 株式会社山と溪谷社, 東京